

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

『私の信じる作業療法』と『作業療法士がツドウ北多摩ブロック活動』



1. 作業の素晴らしさ

「作業に就くことで人は元気になる」「作業に就くことを人は本能的に求めている」「作業によって人は変わる」「作業療法はすごい。刺激的で、時に過激!」。私は作業療法に関わり始めてから、こうした想いをもち続けてきました。そしてその想いは、今でも日に日に増しています。たった一つの「作業」をきっかけにクライアントが劇的に主体的に動き出します。それは、私にとって「過激」と表現したくなるほどの感動を与えてくれます。

2. 私と作業療法の出会い

作業療法との出会いは高校生の頃でした。介護保険制度が始まり、地元・茨城県龍ケ崎市に介護老人保健施設が開設された時期、縁あって施設見学をする機会を得ました。当時の私は学ラン姿の、作業療法とは無縁の若者でした。しかし、その日、人生を変える光景に出会います。

朝食後の広い食堂。そこには、ただぼんやりと過ごす方、落ち着きなく立ち歩く方、徘徊する方など、様々な特徴を持つ利用者の方々が、各々の時間をバラバラに過ごしていたと記憶しています。そこへ一人の女性スタッフ（浅野有子先生【当時、涼風苑、現在、太陽と鳩達】）が現れた瞬間、空気が一変します。

利用者さまは彼女の下に集い、身体を動かし、歌い、笑い、発言し、中には涙を流し笑う方もいました。静かだった食堂が、活気と温かさに満ちた場へと変わったのです。その後、その方が作業療法士だと知り、私はその場で同じ道を志すことを決めました。

3. 作業療法には人が集う

臨床に出て、作業療法の素晴らしさを肌で感じる中で、『作業（療法）には人が集う』ということを経験的に知ります。例えば、病院内で患者さまとお料理をします。すると、美味しそうな香りに誘われて、他の患者さまが自然と集まり、料理のコツや思い出を語り出します。セラピストも看護師も、その輪に加わり料理の話に花が咲く。そして最後は、皆で食べて笑い合う。

こうした様々な化学反応を生み出す作業療法は、セレンディピティ（幸運な偶然をつかみ取る力）が高い仕事であると実感しています。病院、施設を超え、勿論、地域でも学校でも世界の様々なコミュニティで作業には人が集い・繋がり・広がります。

4. ツドイノバという実践から都学会へ

この信念は、北多摩ブロック活動にも生かされています。コロナ禍で人と人が分断された時期、OT同士がつながる「作業」として座談会『ツドイノバ』を開始しました。20回以上開催し、延べ300名が参加する北多摩ブロックのキラコンテンツへと育っています。語り合いの中から、悩みを分かち合い学び、温かなつながりが生まれています。2026年7月5日、北多摩ブロック主催の東京都作業療法学会を開催します。テーマは『ツドイ、繋がり、広がる。～やっぱりOTが好き～』。祭りのように楽しみながら学び繋がり、作業療法の本質を再確認できる場を目指します。作業療法の持つ力を信じる皆さんと出会い繋がることを、心から楽しみにしています。

北多摩ブロック長
戸田中央メディカル
ケアグループ本部リ
ハビリテーション部
田原 真悟

CONTENTS

- ◆『私の信じる作業療法』と『作業療法士がツドウ北多摩ブロック活動』…①
- ◆2024年度までに日本作業療法士協会へ入会された会員の皆様へ 新制度：生涯学修制度「登録作業療法士」への読み替えについて…②
- ◆教えて！あなたの隣の素敵なOTさん！…③
- ◆イベリン 彼が生きた証（Netflix）…③
- ◆ご存知ですか？新規定法律と協会新ガイドライン…④
- ◆2026年の事業部活動予定について…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆地域づくり人材育成研修 実践編 開催報告…⑤
- ◆認知症のひとと家族の生活支援委員会 活動報告…⑥

- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.55…⑥
- ◆保険部 Letter 介護保険制度における福祉用具の給付区分：一部種目における選択制を中心に…⑦
- ◆生活行為工夫情報事業に関する登録者アンケートの調査報告について…⑦
- ◆自動車運転と移動支援対策委員会 研修会報告…⑧
- ◆就労支援委員会での活動を開始して…⑧
- ◆関東ブロックDMAT訓練への参加…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆2025年度 代議員選挙についての報告…⑫
- ◆2026年度 東京都作業療法士会の年会費について…⑫
- ◆編集後記…⑫

2024年度までに日本作業療法士協会へ入会された会員の皆様へ 新制度：生涯学修制度「登録作業療法士」への読み替えについて

教育部部長 太田 萌

日本作業療法士協会（以下、OT協会）では、2025年4月より生涯教育における新制度として「生涯学修制度」を開始しました。2024年度までの生涯教育制度の仕組みを引き継ぐ部分も多くありますが、新たに「登録作業療法士制度」が構築されていることが大きな変化点です。以下に、登録作業療法士制度の概要や旧制度である生涯教育制度からの読み替え対応について解説します。現行の現職者共通・選択研修の開催は2026年度までで全都道府県士会とも終了いたします。ぜひ、計画的に現行の研修会へご参加いただき新制度への読み替えができるようご準備ください。

【新制度：生涯学修制度 登録作業療法士制度への読み替えについて】

以下の要件を2027年3月31日までに満たすことで、登録作業療法士への読み替えが可能です。

1. 現在認定作業療法士である、または2025～2026年度に認定作業療法士の読み替えで認定作業療法士となった
2. 臨床実習指導者講習会（または同等の研修会）の受講を修了しており、生涯教育制度の基礎研修を1回以上修了している

※その他協会員歴に加え、一定の条件を満たすことで適用される読み替え条件がございます。また、認定作業療法士の読み替え条件につきましても複数の条件が設けられております。詳細はOT協会のHPのご参照をお願いいたします。

※他団体開催の臨床実習指導者講習会を受講した方は、ポータルサイトへの受講履歴の登録に手続きが必要です。

※読み替え対象に該当する可能性のある会員へは日本作業療法士協会より別途メールにて案内を送付予定です。

【読み替えに関するスケジュール】

1. 読み替え要件を満たす期限：2027年3月31日
2. 読み替え申請の受付期間：2027年4月～2029年3月末

【生涯教育制度での現職者共通研修・現職者選択研修の開催期日について】

現行の現職者研修の開催は2027年3月31日までで終了いたします。2027年4月1日以降は、2024年度以前に入会されたOT協会会員の皆さんも新現職者共通研修および選択研修の受講対象者となります。現行の現職者研修の受講を進めている会員の皆様は計画的に修了を目指していただければと思います。現職者共通研修に関しましては、医療福祉eチャンネルでの受講も可能です。

なお、2026年度中に上記の要件を満たせない場合には現行の現職者研修から新現職者共通・選択研修への読み替えが可能となっています。

【日本作業療法士協会HP：詳しい情報は以下をご参照ください。】

生涯学修制度概要 読み替え	他団体開催の臨床実習講習会 受講履歴の登録	医療福祉eチャンネル
		

教えて！あなたの隣の素敵なOTさん！

企画：東京都作業療法士会広報部

東京都内にはどんなOTがいるのかな？ 知りたい！出会いたい！そして一般の方にも知ってもらいたい！
広報部ではあなたの隣（同僚、先輩、後輩、上司、部下、友人など）の素敵なOTさんを募集しています。
素敵なOTさんは今後広報部からの取材にてニュースや広報誌に掲載されちゃうかも！

自薦もウェルカムです！

たとえばこんな方！

- OT関連の優れた治療・支援技術を持っている方
- 自助具や作品を作るのが得意な方
- OT以外にも素敵な資格を持っている方
- 特殊な特技を持っている方
- 変わった経歴のある方 などなど

〈応募条件〉

- ご本人の承諾を得ていること
- 日本作業療法士協会及び東京都作業療法士会の会員であること
- ニュースまたは広報誌に掲載可能な方
- 都士会からの取材を受けてくださる方（オンライン可）

応募方法はQRコードを読み取ってFormsにご回答ください。たくさんのご応募お待ちしております！！



イベリン 彼が生きた証（Netflix）

スポーツ支援委員会 担当理事 台東区立台東病院 楠本 直紀

Netflixドキュメンタリー『イベリン 彼が生きた証』をご存じでしょうか。作業療法士として、またスポーツ支援委員会でeスポーツに関わる立場として、非常に興味深い作品です。本作は、進行性疾患により身体機能に制限のある青年が、オンラインゲームの世界で他者と関わり、確かな役割を担っていた姿を描いています。

作業療法の視点では、重要なのは作業の形態だけではなく、その人にとっての意味と価値です。彼はゲーム内で仲間を支え、相談に応じ、必要とされる存在でした。それは明らかに社会参加であり、役割の獲得であったといえるのではないのでしょうか。

私たちスポーツ支援委員会では、ゲームやeスポーツの支援に取り組んでいます。それは単にプレイできるようになることではなく、身体機能に制約があっても、デジタル空間を通じて他者と競い合い、協働し、社会参加が広がる可能性を示すものです。本作は、デジタル環境もまた「意味のある作業」となり得ることを示唆していました。

私たちはADLの自立のみならず、その人が社会とつながり続けられる作業を支える専門職であることを、改めて考えさせられる作品でした。

ご存知ですか？新規制定法律と協会新ガイドライン

広報部

1) 高次脳機能障害者支援法については、第219回国会（令和7年臨時国会）において、令和7年12月16日に成立、同月24日に公布されました（厚生労働省HPより）。ぜひ一度ご確認ください。

「高次脳機能障害者支援法」https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_67482.html



2) 日本作業療法士協会より、「多様な文化的背景をもつ外国人に対する作業療法ガイドライン - どう対応する？困った時の糸口に-」が作成されました。今後も増加が予測される外国人に対する作業療法を行う際に、知っておいた方が良い文化的背景などが分かりやすく掲載されています。

こちらに関しては日本作業療法士協会 会員ポータルサイト ライブラリよりご確認ください。

2026年の事業部活動予定について

事業部 部長 大館 哲詩

本年も事業部は作業療法の啓発活動を中心に活動していく予定です。現時点で参加出展などが決まっているものについては以下の通りです。

- ・4月18・19日 KidsFesta2026
- ・5月16日 看護フェスタ2026
- ・8月8・9日 子どものための福祉機器展

また、以下の取り組みについても計画を進めております。まず、養成校とコラボしたオープンキャンパス企画などを通じて、高校生や中学生など作業療法士を目指す可能性のある学生への情報発信を行います。次に、2025年度に試験的に開始した認定作業療法士を目指す方を対象とした臨床実践報告書の指導者マッチング企画について、試行錯誤を重ねながら運用を継続してまいります。さらに、前回のニュースで募集したOT休職者の復職支援に関する事前アンケートにつきまして、多数のご回答をいただきましたので、今後アンケート結果を踏まえたアクションプランを策定してまいります。その他、OTの日企画（研修）やノベルティ制作も予定しております。

啓発活動につきましては、都士会の他部署や委員会とも連携しながら、作業療法の魅力、価値、そして成果を広く発信してまいります。会員の皆様におかれましては、お時間をございましたら、ぜひ各種イベントにお立ち寄りいただけますと幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

子ども委員会活動報告

子ども委員会 八重樫 貴之

1月10日に群馬パース大学で開催された関東小児発達委員会OT交流会において、関東各県の作業療法士会から小児領域の取り組みについて報告がありました。発達領域に特化した委員会やグループを設置し、学術活動と地域連携を両輪として展開している点が共通しており、定期的な研修会の開催や若手育成の取り組みが紹介されました。また、5歳児健診への参画や自治体との情報共有、園・学校への巡回支援、外部専門家派遣事業など、地域のニーズに応じた実践が進められています。教育委員会と連携し、特別支援学校や地域の小中高等学校に対して授業参観を通じた助言や校内研修の講師を担うなど、直接的医療支援にとどまらない専門的関与が広がっていることも報告されました。さらに、人材バンクの整備や登録制度の構築により、質の担保とネットワークづくりを進めている点も印象的でした。医療機関内の支援から地域・教育現場へと活動領域を拡張する実践は、今後の小児作業療法推進に多くの示唆を与える内容でした。終了後は懇親会が行われ、親交を深めながら活発な情報交換がなされました。

来年度も研修会等を企画していきます。ホームページやFacebook、LINE、X（旧Twitter）などでお知らせするのでご確認いただけたら幸いです。

地域づくり人材育成研修 実践編 開催報告

地域づくり共創部 今井 悠人

地域づくり共創部主催「地域づくり人材育成研修（実践編）」が1月18日（日）に東京都立大学荒川キャンパスで開催され、9名の方々にご参加いただきました。

この研修は「地域における作業療法実践を推進する～作業療法士が自信と誇りをもって地域での作業療法を展開できる～」という目標のもと、地域への作業療法支援体制を構築し、東京都民の健康的な生活を実現すべく、介護予防や地域支援事業に寄与できることを目指して実施しています。「基礎編→実践基礎編→実践編」と3段階でステップアップしながら実施していき、全過程受講修了者には東京都作業療法士会から修了証を発行し、「地域づくり推進リーダー」として登録しています。

地域づくり推進リーダーは、地域ケア会議での適切な助言、短期集中型サービスにおけるアセスメントや計画の立案、通いの場立ち上げに向けた計画立案などを行います。

今回も講座の中で、参加者の皆さんと事例検討などのグループワークを行ないながら、最後には“じぶんごと”として「私が地域活動を実践するにはどうしたら良いか」について考えて頂きアイデアをシェアしました。

今年度で3年目になり、総勢53名の地域づくり推進リーダーが生まれています。来年度も基礎編から実施予定ですので、ご興味がある方は都士会ホームページをチェックしていただきたいと思います。



認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会 渡辺 陵介

2026年1月25日（日）に「認知症アップデート研修」を開催しました。この研修では、認知症の基礎、アセスメント、BPSD、マネジメント等について講義を行いました。講義後はリフレクションを行い、参加者同士で得た知識を共有することで学びを深めました。参加者だけでなく、講師を担当した委員も含め、新たな学び、臨床における情報交換等ができ、有意義な時間になったと思います。この研修は毎年開催しており、認知症の知識をアップデートすることを目的としています。基礎知識のおさらい、新たな知識を増やすことができる研修であり、次年度も開催予定ですので、みなさまのご参加をお待ちしております。

今後の研修として、3月15日（日）に若年性アルツハイマー型認知症当事者との座談会を開催予定です。当事者に生活上における工夫を紹介してもらい、参加者同士での困りごとを共有して工夫について考えるという企画を立てています。作業療法士はもちろん一般の方も参加できる研修会として企画しておりますので、周りの方（認知症と関わっている方もそうでない方も）にお声がけいただき、たくさんの方にご参加いただけることを願っています。

また、当委員会では委員を募集しております。ご興味のある方は研修会や都学会等で委員へお声がけいただくか、右記QRコードからご連絡いただければ幸いです。



認知症にやさしい本の紹介 VOL.55

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『にんちしょうって、なんだろう？』

さく わすれなぐさ え Roko

本書は、認知症と診断された祖母と、孫である少年たくとの心の交流を描いた物語である。大好きなおばあちゃんの異変に接した家族の戸惑いと、宣告を受けた本人が抱く深い悲しみが、たくとの純粋な視点を通して切実に綴られている。物語の中核を成すのは、一見不可解に見える言動の裏側に潜む「正当な理由」への深い気づきである。夏に冬服をまとう、あるいは昼間に暗い部屋でパジャマ姿で現れるといった行動は、周囲からの「心配そうな目」に怯え、夜通し起きていたことに起因していた。これに対し、たくとは「おばあちゃんは間違っていない」と断言し、彼女の主観的な世界を全面的に肯定する。たくとが母親に対して助言する「ゆっくり目を見て話を聞いてあげる」という姿勢は、現代の認知症ケアにおいて極めて重要な、個人の尊厳を尊重する態度に他ならない。買い物の手助けや金銭授受の補助など、日常生活の中での自然な関わりを継続することを通じて、認知症による「ずれ」を抱えながらも、互いに支え合って共に生きる家族の在り方を鮮やかに提示している。認知症を単なる心身の衰退や喪失として捉えるのではなく、誠実な対話を通じて心を通わせ続けることの尊さを静かに説く、示唆に富んだ一冊である。認知症というテーマを子どもの柔らかな視点から描くことで、読者に対し、他者に寄り添う真の心の在り方を深く問いかける。老いと向き合う全ての人々に、ぜひとも読んでほしい。

保険部 Letter

介護保険制度における福祉用具の給付区分：一部種目における選択制を中心に

保険部・医療法人社団永生会 永生病院 野口僚子

2024年（令和6年）4月の介護保険制度改正により、福祉用具の給付体系は従来の「貸与（レンタル）」「販売（購入）」に加え、一部種目における「選択制」が導入されています。

この変更は、利用者の経済的負担の軽減・給付の適正化を目的に導入されたものです。

区分	対象種目	制度上の定義・性質
貸与 (レンタル)	車椅子（付属品含む）、特殊寝台（付属品含む）、床ずれ防止用具、体位変換器、手すり（工事不要）、スロープ（可搬）、歩行車、認知症老人徘徊感知機器、移動用リフト（つり具除く）	身体状況の変化に応じた適時な交換や、専門的メンテナンスを継続して必要とするもの。
販売 (購入)	腰掛便座、入浴補助用具、自動排泄処理装置の交換部品、簡易浴槽、移動用リフトのつり具、排泄予測支援機器	衛生上の理由、または一度使用すると再利用が馴染まない性質のもの。
選択制	固定型スロープ、歩行器（歩行車を除く）、歩行補助杖	比較的低価格で購入することにより利用者負担が軽減できるもの。貸与または販売を利用者が選択可。

選択制のプロセスと判断指標

選択制の対象種目を利用する際、福祉用具専門相談員やケアマネジャーは、医師やリハビリテーション専門職等の意見を聴取することが義務付けられています。

利用者は提示された複数の選択肢（継続的なモニタリングが可能な貸与、または月額費用を抑えられる販売）と専門職の意見を照らし合わせ、最終的な利用形態を決定します。なお、購入を選択した場合は、その後の定期的な点検や身体状況変化に伴う用具変更の仕組みが貸与とは異なり、その点も選択の際に考慮する必要があります。詳しくは厚生労働省からの情報をご覧ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001303228.pdf>

生活行為工夫情報事業に関する登録者アンケートの調査報告について

みなみ野病院 福祉用具部 部長 金子 大輔

生活行為工夫情報事業は、OT協会がとりすすめている事業の一つであり、都士会では福祉用具部が主体となり推し進め、度々都士会ニュースや都学会などで啓発/普及を行っています。簡単にお伝えすると、OTが普段行っている臨床のちょっとした工夫（自助具の作成や既製品の使用など）により患者/利用者へ自立支援を図った事例をWEB上で閲覧できるものです。

当事業は2016年より開始し、システム登録者は徐々に増えていますが、事例登録につながらない実態がありました。他士会を含め事例登録につながる方法を模索し、とりすすめてきましたが、未だ登録数の伸び悩みが課題となっています。そこで、昨年8月より当事業に登録している会員の皆様へアンケート調査を依頼させていただきました。その結果の詳細を都士会HPに掲載させていただいております（QRコードにて掲載ページへ）。ご確認いただけたら幸いです。また、当事業の登録QRコードも下記にありますので、登録いただき、多くの事例を参考にして、日々の臨床のヒントとして活用いただければ幸いです。



アンケート結果



福祉用具相談支援システム

福祉用具相談支援システム
利用登録ログインID: yokaoit
利用登録用PW: otot

自動車運転と移動支援対策委員会 研修会報告

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大熊 諒

●2026年1月23日（金）

研修会「脳損傷者の自動車運転再開支援に作業療法士が必要な知識と注意点」

本研修会では、自動車運転再開支援の重要性と実践的課題について共有した。参加者からは、法的側面や身体・高次脳機能評価を踏まえた段階的な判断の必要性を再認識したとの声が多く、早期に可否を決めるのではなく、生活期まで見据えた長期的視点の重要性が確認された。また、評価内容やカットオフ値、判断根拠が整理されたことで支援の流れが明確になったとの意見も多かった。特に、運転技能だけでなくメタ認知への介入が再開可否に影響するとの視点は大きな学びとなった。一方で、DSや実車評価が困難な施設での判断、境界例や見送り時の説明方法、法制度理解、再開後フォローや院内体制整備など、多くの課題も共有された。今後は評価基準や説明指針の整理、急性期から生活期まで一貫した支援体制の構築が求められる。

●2026年2月21日（土）

研修会「地域の移動支援における作業療法の役割と福祉用具の活用～実践報告と移動支援機器体験～」

実際の現場で、作業療法士がどのように関わってきたのか具体的かつ生きた実践報告を通じて、移動支援において私たちが担うべき役割について学ぶ機会としている。また電動車椅子や電動アシスト4輪自転車などを実際に操作する体験を通し対象者の個性に合わせた機器選定のポイントを学び、地域移動支援の幅を広げるきっかけにできれば考える。

就労支援委員会での活動を開始して

就労支援委員会 大貫 真理

今年度より就労支援委員として活動を開始し、その取り組みの一環として、東京都作業療法士学会における公募企画に参画しました。本企画では、厚生労働省 社会・援護局 障害福祉部 障害福祉課 就労選択支援専門官である鈴木大樹氏を講師にお招きし、「就労選択支援を学ぼう！～就労支援における作業療法士の更なる活躍を目指して～」をテーマに、講義およびディスカッションを実施しました。本企画では、就労選択支援制度の概要や背景、今後の展望について理解を深めるとともに、作業療法士が就労選択支援の現場で果たす役割や専門性について考える機会となりました。ディスカッションでは、就労支援における課題や可能性を共有する有意義な場となりました。

私は就労継続支援B型事業所にて勤務していますが、就労支援分野において関わる作業療法士の人数は決して多くないと感じます。そのような背景から、就労支援に関心を持つ作業療法士同士のつながりを求め、今年度より就労支援委員として活動に参加しました。今後も委員会活動を通じて知見を広げ、委員として学んだことを日々の就労支援の現場に反映していきたいと考えています。就労支援に関心のある方や、同様の思いを持つ方には、ぜひ就労支援委員会への参加をご検討いただければ幸いです。

関東ブロックDMAT訓練への参加

都士会災害対策担当（保険部担当理事） 松岡 耕史

東京都JRAT（東京都災害リハ支援関連団体協議会）

東京都作業療法士会は、医師やPT、STなど都内のリハ関連団体と共に東京都JRATの構成団体であり、災害発生時には生活不活発病対策や避難所環境の整備、被災者の自立支援活動を行う。2024年に東京都JRATは東京都と災害リハ支援協定を締結したこともあり、都内での大規模災害時には東京都と連携して災害支援活動を実施する。

関東ブロックDMAT訓練

関東ブロックDMAT（災害派遣医療チーム）訓練は、大規模災害発生時における迅速かつ的確な医療対応を実現するため、関東各都県の災害派遣チームが連携し、実践的な対応力と広域調整体制の強化を目的として実施される。

2026年1月31日の訓練では東京都JRATも参加し、東京都保健医療福祉調整本部（都庁）と区市町村の災害対策本部（今回は調布市）が合同でそれぞれ以下の内容を実施した。

東京都保健医療福祉調整本部：東京都と自衛隊、各都県DMAT、

災害リハ支援関連団体（ここに東京都JRATも含まれる）が参加し、災害時における病院支援及び医療搬送等の訓練を実施した。

調布市災害対策本部：調布市の災害対策担当者と日赤救護班、DMAT、訪問看護師、東京都JRATなどが参加し、調布市の災害時の避難所運営や巡回方法、被災者の生活不活発病予防について検討した。



〈調布市災害対策本部活動の様子〉

災害時における東京都作業療法士会の動き

東京都で大規模災害が発生した際には、上記のDMAT訓練のように被災状況に応じて東京都保健医療福祉調整本部と区市町村の災害対策本部が立ち上がる。そこに東京都JRATとして東京都作業療法士会も入り、避難所の立ち上げや避難所への巡回チームと連携して支援が始まる。被災状況を確認しながらリハ職による派遣チーム数が決定され、作業療法士の派遣も順次行っていく。被災地のリハ職は所属施設の業務の復旧が最優先となり、避難所等の支援は被災状況により外部からの援助が必要になるが、最終的には地域のリハ職による活動で復興できることを目指していく。

東京都作業療法士会として、災害時に円滑な連携ができるように東京都や東京都JRAT、各地域のリハ職と平時からの関係をさらに強化していく。

災害派遣登録バンクへの登録

東京都作業療法士会では、避難所へ派遣する人材の確保と育成を目的に災害派遣登録バンクを設置している。

災害派遣登録バンクの詳細と登録方法は右記QRコードからご確認いただきたい。

登録バンク詳細



登録はこちらへ



※東京都作業療法士会の災害対策に関わってみたい方は下記アドレスへご連絡ください。

tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（都士会災害対策担当：松岡）

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

小宮 優太

区東部・東北部ブロックでは、2020年以降初となる対面での研修会を1月23日に開催しました。家屋評価をテーマに「福祉協同サービス」様にご協力いただき、対象者の動きをイメージしやすいよう実際の自宅に近い環境に設定した体験コーナーやケーススタディを取り入れた対面ならではの体験型研修となりました。当日は限られた時間ではありましたが、作業療法士のみならず理学療法士やケアマネージャーなど計50人を越える方にご参加いただきました。遠方からの参加者もあり、普段職場では話すことの出来ない悩みを、多職種と共有する良い機会になったと思います。また、研修会終了後のアンケートでは、「有意義な時間になった」「1年目のときに受けたかった」といった嬉しいお言葉も頂戴いたしました。今回の経験を活かし、今後も新人、ベテラン問わず様々な経験年数の方が日々の臨床に繋がる学びの場となるような研修会を企画できるよう努めて参ります。機会がございましたらご参加いただけますと幸いです。

医療法人社団福寿会 みらいリハビリテーション病院 小宮 優太

連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

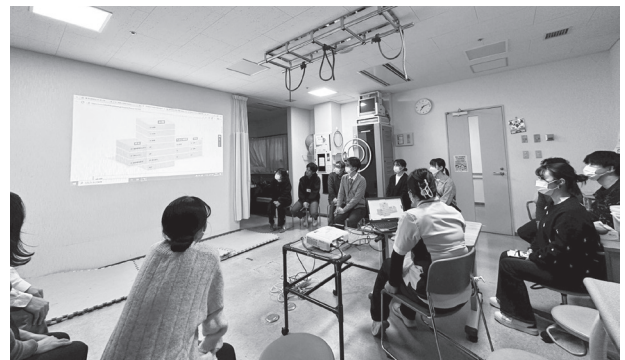
区西北部ブロック

竹川病院 藤澤 知弘

2026年1月23日東京北医療センターにて区西北部ブロック主催の交流会を開催しました。交流会内容として区西北部ブロックのこれまでの取り組み紹介や北医療センターの紹介を行いました。さらに懇親会も行われ大盛況で終わることができました。

交流会を通して区西北部ブロック一同一より団結を高めることに繋がったと思います。今年度も作業療法を啓発できる企画・運営をできればと思っています。また、ブロック活動に興味ある方はお気軽にお問い合わせください。

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com



東京北医療センター 交流会様子

西部・西南部ブロック

彰栄リハビリテーション専門学校 野村 哲朗

新宿区・渋谷区・目黒区・中野区・杉並区・世田谷区で従事しているOTの皆さんはこちらのブロックに該当します。今年度はOT交流会や「ここでも活躍してるの?! 作業療法士～OTの起業と行政への参入～」という研修会を開催いたしました。どれも盛況となりました。ご参加いただいた方々、ありがとうございました。

同ブロック、同じ区内でも職場が違っても同じ作業療法士でも遠い存在に感じたり、でも、どんな事をしているか少し気になったりされていませんか？

私は、そんな方にブロックの活動に注目して頂き、私たちの研修会などの催しに参加して頂けたらいいなと思っています。身近なエリアからつながりを作っていく事も素敵だと思います。当ブロックメンバーは気さくな方が多く、私もいつも楽しく刺激を受けています。区ごとの活動も行うこともありますのでどうぞ、よろし

くお願いします。

次年度も研修会を行うため動き出し始めました。ブロック活動にご興味がある方はまずは見学からでも可能なので、お気軽にご連絡ください！

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

阿部 幸太

3月1日にブロック研修「作業療法士のための明日から使える園芸活用法～園芸療法研修会Prat 2～」というテーマで、都市部での園芸療法の実践を交えての研修を、北多摩ブロックと共催で開催しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。当ブロックではブロックの枠を超え、会員の皆様が参加したい！と思えるような研修やイベントを次年度に向けて準備をしています。ご興味あれば、ぜひともご参加のほどよろしくお願い致します。

また、当ブロックでは一緒にブロック活動を盛り上げてくださる方を随時募集しております。是非、一緒に活動しましょう！

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

竹本 龍太

1月15日オンラインにて第21回ツドイノバ「2026年都学会に行こう！」を開催いたしました。今回は、杏林大学の原田先生（都学会実行委員長）、人見先生（都学会学術部門長）をお呼びし、学会参加と発表についての情報提供を行っていただきました。グループワークでは学会に参加、発表することについての悩み相談などが活発に行われていました。今年の都学会（7月5日）は北多摩が主催となります。色々な出会いが生まれ、この先に繋がっていくようなアットホームな学会の実現に向けて着々と準備を進めております！ぜひホームページやInstagramも覗いてみてください！



ブロック委員も随時募集しています！ご興味がある方は下記連絡先までお問い合わせください！

連絡先：ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

橋本 梨花

今年度、西多摩南多摩ブロックでは、6月にオンラインでのOT交流会、11月にはMTDLP事例検討会を行わせていただきました。どれも私にとってはブロックメンバーとなり初めての参加となりましたが、さまざまな分野のOTが学び交流する場が見られ、エリアが広い当ブロックならではの良さだと感じました。来年度は我々ブロックの色と良さがより前面に出るように、さまざまな企画を準備してまいります！こんな研修会、企画があったら良いなというご意見がありましたら、ぜひ下記のメールまでご連絡ください。

ブロックメンバーも募集しております。活動に興味がある方、いろいろな分野のOTと交流したい方、ご連絡お待ちしております！

連絡先：swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

2025年度 代議員選挙についての報告

選挙管理委員 照井 林陽

この度の代議員選挙では全選挙区において定数どおりの候補者となりました。

そのため、定款第10条および選挙規程に基づき、31名の候補者全てを無投票当選とし、投票は行いませんでした。

東京都作業療法士会 代議員 定数 31名

第1区：石川未来	菊池大典	扇浩幸	和仁久見子	野村哲朗	
第2区：森本美和	山下高介	竹山真美	宇佐美好洋	中本久之	
第3区：大瀧直人	馬場博文	猪股英輔	酒井康年	佐々木剛	石橋裕
第4区：山本司	阿部幸太	森田将健	柴橋広智		
第5区：原田祐輔	紙田緑	田原真悟	細山泰子	岡上正樹	
第6区：鎌田小百合	栗沢広之	松岡耕史	林義巳	今泉幸子	上野繕広

2026年度 東京都作業療法士会の年会費について

事務局長 中里 武史

日頃より、東京都作業療法士会の事業に対しまして、ご支援・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。東京都作業療法士会の2026年度会費について、口座振替ご登録の方は4月末にご指定の口座より引き落としを実施いたします。

口座振替をされていない方、口座振替が完了できなかった方については、4月以降に順次会費の振込用紙をお送りさせていただきます。会費納入状況は、日本作業療法士協会の会員の方は会員ポータルよりご確認ください。なお、2026年度の口座振替の手続きについては11月ごろにご案内させていただく予定です。会費に関しましてお手数おかけしておりますが、何卒宜しくお願い致します。

編集後記

今年度も作業療法の奥深さや専門職の楽しさを感じることが出来た1年になりました。心に残っている事を二つ、ご紹介させていただきます。一つ目は所属先の学校の卒業教育にて山本協会長のご講義を受けた際の学びです。脳卒中後の片麻痺患者様への上肢～手のアプローチで物を把持した手の構えの診かたや、道具を介する作業で回復させる臨床OTの強みを感じられて嬉しかったです。二つ目は都学会の公募企画でファッションショーを開催させて頂けたことです。モデルや、ご家族が当日に向けて衣装を制作され、本番ではモデルになった事を喜んで頂けました。「参加」の機会を創出することが予想以上に様々な方の作業療法になっていた事を知り、当事者様の希望や地域の潜在的なニーズを感じました。

次年度は6月に医療保険の診療報酬が改定されますね。作業療法の存在感の高まりを感じながらも、より多くの国民の皆様へ質の高いOTを提供することが重要だと緊張感も芽生えています。広報部としても会員の皆様へ有益な情報を提供できるよう活動していきたいと思えます。

【お知らせ】次回は広報部員が交代で編集後記を担当します！ 広報部 部長 野村 哲朗

訂正とお詫び：OTOvol.8「作業療法とファッションショー」P.12 東京都作業療法士会広報部 STAFFにおきまして下記訂正がございました。お詫び申し上げます。

誤：野村哲朗 橋本奈実 金澤均 山崎仁智 宿久侑裕 加藤真美 小林亜結美 水口寛子

正：野村哲朗 橋本奈実 金澤均 山崎仁智 宿久侑裕 田口剛之 加藤真美 小林亜結美 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。